

尾瀬ヶ原・尾瀬沼・奥只見湖の旅 ① 2023.8.26 (土) ~29 (火)

約 60 年前に一人で辿った道を、もう一度歩いてみたいと計画を作成し、こんなコースはいかがでしょう、と諮ったら同行してくれる人が現れました。

尾瀬ヶ原から三条ノ滝・渋沢温泉小屋跡を経て小沢平へ出、国道 352 号を歩いて金泉橋を渡れば新潟県。鷹ノ巣を通過して奥只見湖の南端から遊覧船に乗って奥只見ダムへ。銀山平温泉で 1 泊して小出に至る、という案でした。

しかし、渋沢温泉小屋付近から小沢平への道が、豪雨で荒れていて安全に通行できないと聞き、途中のルートを変更し奥只見湖・銀山平を通して小出に抜ける旅をしました。



バスタ新宿を 26 日 22 時 00 分に発車したバスが尾瀬戸倉に到着したのは翌 28 日の 4 時前。鳩待峠へのシャトルバスを待っていると。座席は 4 枚とも通路側で予約し、客が少なく二人分を独り占め。ゆったりでよかった。

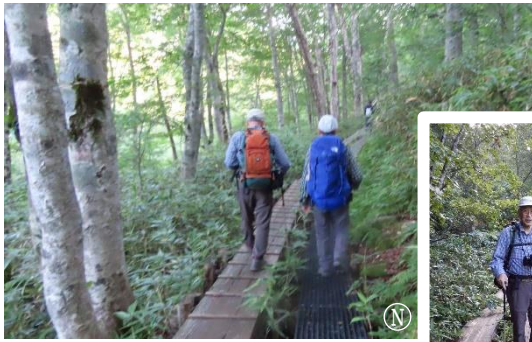


鳩待峠のシャトルバス終点。鳩待峠へはバスを降りて 100m くらい歩く。



鳩待峠の鳩待山荘と休憩所。以前はこの前までバスが乗り込んでいたのだったが。

↓ 鳩待峠の休憩所で朝食を食べて、歩き出す前に写真を 1 枚。



歩き始めは石畳の階段があったが、あとは歩き易い木道が続いている。



← 熊が出没しているようで、熊除けの鐘が設置されていた。
↑ 川上川橋を渡ったところで立ち止まる。山ノ鼻はもうすぐだ。



← 山ノ鼻に到着。ビジターセンター内を見学して、植物研究見本園に向かう。見本園に入るとすぐに迎えてくれたのが、右の風景。至仏山、ここからはとても優しい山に見える。



← 尾瀬ヶ原を歩き出す。至仏山から離れると俄然、雄大で険しい山に見えてくる。



一周 1km 弱の植物研究見本園の木道を歩けば、尾瀬ヶ原のほぼすべての植生を見ることができそうだ。



← ↑ ここは、逆さ燧ヶ岳を見ることができる、有名な場所。風が小波を立てていて残念。



山ノ鼻から牛首までの道は人も歩いていましたが、牛首分岐でヨッピー吊橋へ向かうと、人影が減る。



このベンチで長い休憩をした。前の池塘にヒツグサの閉じた花が浮いている。暫く後で見ると開きかけていた。



ヒツグサ (スイレン科)

(②へつづく)



ヨッピー吊橋に着いた。右に別れる木道は竜宮に至る道。

地図によると、吊橋を渡って少し進むと群馬県から新潟県に入っているが、どこが県境かは気が付かなかった。



東電小屋に着いた。ここは、新潟県だ。尾瀬ヶ原下田代の見晴らし十字路あたりから見るのが正面だとすると、角度が少し北側に寄っただけなのに、至仏山の山容がすいぶん変わって見える。山頂がきりっと引き締まって見えて、この角度もとてもいい。



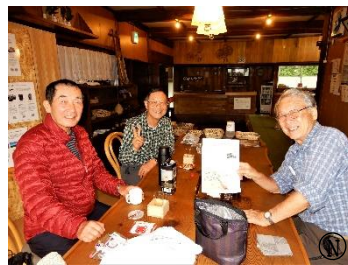
東電小屋から間もなく、東電尾瀬橋に至る。橋から見下ろす川は果たして只見川か。鳩待峠から山ノ鼻までの沢の水を集めて先ずは川上川となり、尾瀬ヶ原に入るとヨッピー川、そしてどこから只見川と名前を変えるのだろうか。



東電尾瀬橋を渡って下田代に入ると、見晴の小屋群の屋根が見えた。着いたら生ビールと昼餼が待っている。昨秋登って苦労した燧ヶ岳も近い。



この場所に、昼食のために入った桧枝岐小屋の写真を入れたいところだが、生ビールと山菜蕎麦に気を取られて、カメラを取り出すことを忘れてしまっていた。



原の小屋の、談話室と言おうか、喫茶室と言おうか。日本酒を頼んで夕食前の団欒。この時から、外は雨が降り始めて、雨に降られる前に小屋に入ることができて、幸運だったと話が弾んだのだった。



風呂に入って夕食。やはりビールは外せない。



お世話になった原の小屋の写真、撮り忘れたのでホームページから拝借。

鳩待峠の鳩待山荘前や東電小屋周辺で、建て替えるのか新築か、普請をしていたが、どの小屋も大きくて立派だ。山小屋というよりも、もはや旅館と呼んだほうが良い造りだ。

風呂は以前からあったが、石鹸は使ってはいけなかった。今は性能の良い浄化装置があるのか、使ってもよくなっている。そして何より、トイレが洋式で洗浄装置が付いているのが、清潔で気持ちよい。

(付録)



アオヤギソウ (ユリ科)



エソリンドウ (リンドウ科)



オゼミズギク (キク科)



ヤマトリカブト (キンポウゲ科)



アケボノソウ (リンドウ科)



ハクサンボウフウ (セリ科)



イワショウブ (ユリ科)



タムラソウ (?) (キク科)



オゼヌマアザミ (?) (キク科)

今回見た花の一部。もう少し早い時期なら、もっとたくさんの花が見られる。

夕食を終えて、部屋に戻った。夜行バスで睡眠不足だったかせいか、部屋で飲むこともせず、早々に寝てしまう。



8月28日。昨日の午後から降り出した雨はほぼ止んでいる。原に出てみると一面霧に覆われていた。もしかして白い虹が見えるかと期待したが、太陽も霧とその上の雲に隠れていて、淡い望みは霧消した。午前7時に小屋を出発。ブナの林の中の道に行く。→



燧ヶ岳に登る道、見晴新道の分岐。左の道標の他、木道に打付けた標識は、足元だけを見て歩く人も見落とさないだろう。



← イヨドマリ沢で小休止。イヨは魚。魚も遡上できずここで止まるほどの沢である、という意味らしい。↓そして、歩き再開。



← 段小屋坂の途中。↓ 段小屋坂を登りきると白砂峠に着く。



白砂田代



← 白砂峠から10分ほど下ると白砂田代。ベンチで休憩。



白砂田代から約10分、沼尻に到着。休憩所の売店は閉じていた。尾瀬沼が目の前に広がり、振り向けば燧ヶ岳ノが聳えている。尾瀬沼の水は、ここ沼尻から、沼尻川となって尾瀬ヶ原に流れ下り、ヨッピー川に合流し、只見川の水となる。



尾瀬沼は小波を立てながらも静まっている。



浅湖湿原を抜け、↑ 鹿除けの柵の扉をくぐると間もなく大江湿原に出る。大江湿原のシンボリックな3本唐松の脇を通って、ビジターセンターや長蔵小屋が建つ地域に↑。



ここは大江湿原。しばらく休んで沼山峠へ向かう。ここに来る前、長蔵小屋の玄関先が食堂になっていて、山菜蕎麦と缶ビールを頼んで昼食にした。



上の写真は、案内パンフレットでよく見る道標の前。あとは沼山峠まで登るだけ。



このバスに乗って奥只見湖の尾瀬口船着場に向かう。

尾瀬の旅はここまで。バスを降りれば奥只見湖の船旅と、銀山平温泉が待っている。

尾瀬ヶ原・尾瀬沼・奥只見湖の旅 ④ 2023.8.26 (土) ~29 (火)

バスは定刻に終点の尾瀬口に到着した。しかし、山の中の霧田気で船着場がありそうな場所に思えない。が、すぐに手摺が付いたコンクリートの階段が目に入ってきた。

何段あったのだろう、どんどん下ってようやく船が見えてきた。バス到着から出船まで10分しかないのでは、この階段、気分的に忙しい、余裕がない感じがする。



尾瀬口船着場の栈橋。定刻に出航した。船長は20代の青年だった。一人で切符の販売、舳網を解く、栈橋から船を押し離す。バス停尾瀬口は、上の写真の右上の木の下あたりだろうか。



沼山峠からのバスは御池で大勢の人が降り、尾瀬口までの客は我々4名ともう一人の計5人。この船は完全予約制で、もしも予約客がいなかったならば船は運航されないのだろうか、とふと疑問が湧いた。

この船も時間通りに奥只見ダムに到着。



船を降りて階段を上がり少し歩くとダムの上部に着く。

左はダムを船から見ていたのとは反対側の様子。夕方で、宿の車が迎えに来てくれていたので、ゆっくり見る時間がなかったが、阪西さんが右の説明板とともに写してくれてくれた。

宿をお願いした樹湖里の主人の運転する車で銀山平温泉へ。荷物を解き、着替えを準備してすぐ近くの日帰り温泉「白銀の湯」で汗を流しさっぱりした。

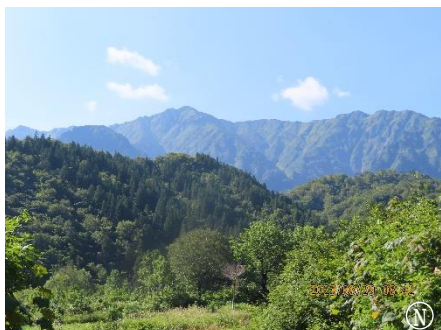


夕暮れの銀山平温泉。左の建物は白銀の湯、右の山は中ノ岳。

山陰に陽が沈む。中央に見えるのは駒ヶ岳か。この霧、明朝に滝雲になる前兆か。



銀山平温泉の民宿樹湖里さんにお世話になった。貸切りのバンガローも3棟あって、家族連れには良いだろう。朝夕の食事はここの食堂で出してくれるとのこと。



銀山平温泉の朝。左のピークは荒沢岳。



左の丸い山は中ノ岳、右の三角は駒ヶ岳。



銀山平温泉の樹湖里までタクシーに迎えにきてもらい、小出駅へ。駅前でタクシーに乗って堀之内にある永林寺へ、幕末の頃の石川雲蝶の彫刻を見に行った。再び小出に戻ってビールと蕎麦の昼食をとり、解散した。

今回の参加者＝阪西 保・星 富夫・成田 修・勝沼正敬

この報告を作るにあたり、阪西さん[ⓑ]と成田さん[Ⓝ]より写真をお借りした。(おわり 勝沼)